

# ～秋田みちかわちいき情報～

(問い合わせ) 調査一課長 栗田 政芳 Tel 018-864-2288

## 秋田市土崎南小学校で 全学年を対象に防災学習 (平成29年9月1日)

日時 平成29年9月1日(金) ① 9:30～10:15  
② 10:30～11:15

対象学年 ① 1年から3年生 約140人  
② 4年から6年生 約140人

### ●内容

・主旨: **防災とは“にげること”**

(理由は、“水害を知る”と“情報を得る”に設定。)

“水害を知る”→雨の街の様子、水害の発生の様子、水害の発生日理。

(低学年には日本の地形的特徴を軽く、高学年には加えて気候変動も説明。)

“情報を得る”→マスコミで流す注意報から警戒の流れと川の状態を説明。予報用語の降水を表す言葉と状態を絵と写真で、街場と山場での災害の予兆をイラストで説明。

「とるべき行動」→屋内に避難し表に出ない。事前に情報を得ることの大切さを説明。



等身大パネルを使って浸水深をイメージ

### ●成果

- ① 低学年には簡単な言葉に直し説明する必要があった。高学年はあまり噛み砕かず新しい事、気候変動に重きを置いた。
- ② 子供の注意を惹きつけるため、イラストをいくつも用意し回りに張ったのは効果的。開始前から子供達が興味を示した。
- ③ クイズ形式で子供達に参加してもらい、同じ質問を何人にも聞いていく形式をとったので興味を持って貰えた。
- ④ “逃げるが勝ち”簡単で耳に残りやすいフレーズで頭に入りやすかったと思われる。シンプルで耳慣れたものは大事。
- ⑤ “かしく逃げる”情報とその実際のイメージをセットして学習は効果的だった。
- ⑥ 「避難先と持ち出し品を家族と決める」得た知識を家族と共有する事は子供にとって家族との話題となり、また親にとっても防災を考えるきっかけになる。
- ⑦ 防災グッズの展示も効果的。
- ⑧ 怖い映像を流しての恫喝的なものを一切排除し、イラスト、写真と図表中心に構成、子供達の前向きな同意を引き出した。



避難場所や準備する物をみんなで作成、発表する



防災グッズの展示



プロジェクターを使った降水レベルの解説



洪水ハザードマップから学校を探し、見方を学ぶことを期待



イラストを使った水位の危険度レベルを表わした表



張り出し資料を設置した会場の様子



地図上から自分たちの学校を見つける子ども達

### ● 授業後の先生からのコメント ●

- ・ワークシートを書きながら説明を聞くことは無理なので、書く時間は集中して書かせる。
- ・クイズの答え合わせは全部回答後一緒にやる。  
(場合によっては各自回答後周りと答え合わせし、その後回答の説明に入るのがベター。)
- ・補助者がいるのだから説明者を替えながら行うとより効果的。

東北地方整備局 秋田河川国道事務所

〒010-0951 秋田県秋田市山王1丁目10-29 電話:018-823-4167(代表)

HPアドレス : <http://www.thr.mlit.go.jp/akita/>